

## 『いなばの白うさぎ』

日本<sup>にほん</sup>で一番<sup>いちばん</sup>古い<sup>ふる</sup>本<sup>ほん</sup>にのっているイジメ<sup>いじめ</sup>の話<sup>はなし</sup>は、小学<sup>しょうがく</sup>2年生<sup>ねんせい</sup>の国語<sup>こくご</sup>で習<sup>なら</sup>う「いなばの白<sup>しろ</sup>うさぎ」です。712年<sup>ねん</sup>にできた古事記<sup>こじき</sup>という書物<sup>しょぶつ</sup>（本<sup>ほん</sup>）にのっています。

80人<sup>にん</sup>もの兄弟<sup>きょうだい</sup>の末<sup>すえ</sup>っ子<sup>こ</sup>のオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>は争<sup>あらそ</sup>い事<sup>ごと</sup>が嫌<sup>きら</sup>いです。お兄<sup>にい</sup>さんたちは、オオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>をいくじなしと笑<sup>わら</sup>い、仕事<sup>しごと</sup>を言<sup>い</sup>いつけては、こき使<sup>つか</sup>っていました。（今<sup>いま</sup>でいうパシリ<sup>ぱしり</sup>ですね。）

さて、ある日<sup>ひ</sup>お兄<sup>にい</sup>さんたちは、いなばの国<sup>くに</sup>にいるヤカミ姫<sup>ひめ</sup>という人<sup>ひと</sup>をお嫁<sup>よめ</sup>さんにもらおうと出<sup>で</sup>かけて行<sup>い</sup>きました。

荷物<sup>にもつ</sup>は大きな袋<sup>おほふくろ</sup>に詰<sup>つ</sup>めてオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>に持<sup>も</sup>たせ、お兄<sup>にい</sup>さんたちは身<sup>み</sup>軽<sup>かろ</sup>に先<sup>さき</sup>に進<sup>すす</sup>みました。お兄<sup>にい</sup>さんたちにいじめ<sup>いじめ</sup>られ苦<sup>くる</sup>んでいるうさぎ<sup>うさぎ</sup>を、後<sup>あと</sup>からやっ<sup>や</sup>ってきたオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>が助<sup>たす</sup>けるという有<sup>ゆう</sup>名<sup>めい</sup>お話<sup>はなし</sup>です。

教科書<sup>きょうかしょ</sup>ではこ<sup>こ</sup>こまでですが、その続<sup>つづ</sup>きがあります。

お兄<sup>にい</sup>さんたちは、全<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>ヤカミ姫<sup>ひめ</sup>にふられ、姫<sup>ひめ</sup>は心<sup>こころ</sup>やさしいオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>のお嫁<sup>よめ</sup>さんになりました。お兄<sup>にい</sup>さんたち（加害<sup>かがい</sup>者<sup>しゃ</sup>）は見<sup>み</sup>下<sup>くだ</sup>していたオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>（被害<sup>ひがい</sup>者<sup>しゃ</sup>）が、自分<sup>じぶん</sup>たちの思<sup>おも</sup>うようにならなかつたり、幸<sup>しあ</sup>せになつたりするのは許<sup>ゆる</sup>せません。（加害<sup>かがい</sup>者<sup>しゃ</sup>の気持<sup>きもち</sup>ちは次のページ<sup>つぎ</sup>の「いじめの政治学<sup>せいじがく</sup>」をよ<sup>よ</sup>読むとよ<sup>よ</sup>くわかつます）

ある日<sup>ひ</sup>、オオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>はお兄<sup>にい</sup>さんたちにだまされて死<sup>し</sup>んでしまいます。これを知<sup>し</sup>ったオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>のお母<sup>かあ</sup>さん<sup>お</sup>が神<sup>かみ</sup>さまにお願<sup>ねが</sup>いし、オオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>は生<sup>い</sup>き返<sup>かえ</sup>ります。お兄<sup>にい</sup>さんたちはますますオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>を憎<sup>にく</sup>み、いろい<sup>いろ</sup>んな方法<sup>ほうほう</sup>で殺<sup>ころ</sup>そうとしましたが、その度<sup>たび</sup>に天<sup>てん</sup>の神<sup>かみ</sup>さまに助<sup>たす</sup>けられました。（神<sup>かみ</sup>さまたちのお話<sup>はなし</sup>だから生<sup>い</sup>き返<sup>かえ</sup>ることができたのでしょ<sup>う</sup>ね。）その後<sup>ご</sup>もオオクニヌシ<sup>おおくにぬし</sup>はいろい<sup>いろ</sup>んな困<sup>こん</sup>難<sup>なん</sup>を乗<sup>の</sup>り越<sup>こ</sup>え、出<sup>い</sup>雲<sup>いずも</sup>の国<sup>くに</sup>の王<sup>おう</sup>様<sup>さま</sup>になるのでした。



メールでの  
相談もできます



三木市子どもいじめ防止センター

電話：0794-82-8110

相談日 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

ijime\_boshicenter@city.miki.lg.jp

三木市福井 1933-12 三木市立教育センター3階

祝日・12/28～1/4はお休みです

6月から  
相談日が変更  
になりました



# いじめる側の心・いじめられる側の心

どうしてこんなにいじめによる自殺が続くのでしょうか。最近の子どもたちの心が弱いからでしょうか。そうではありません。いじめが複雑、巧妙になっているからです。

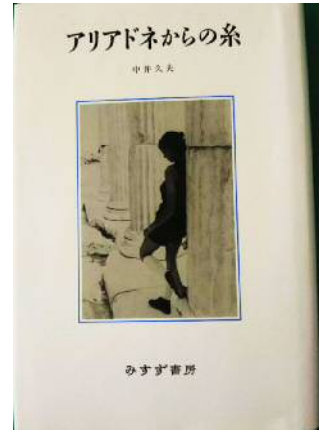
精神科医であり、神戸大学名誉教授である中井久夫先生の『アリアドネからの糸』という本からいじめについて書かれている所を抜粋して紹介します。

この本の中の「いじめの政治学」という章で、いじめの起る原因を心理学の面から分析されています。

- ①子どもの権利はとても制限されており、それに反発するように権力欲に飢えている。
- ②いじめは他人を支配し言いなりにすること。人間を奴隷化していく。
- ③うまく立ち回ったり、脅したり、そのしくみはとても政治的である。

このようないじめる側の心理状態を分析し、次に「孤立化」→

「無力化」→「透明化」の三段階でいじめが被害者を追い詰めていく過程が説明されています。



『アリアドネからの糸』 中井久夫  
(株)みすず書房 1997年

## 孤立化 (一人ぼっちにさせること)

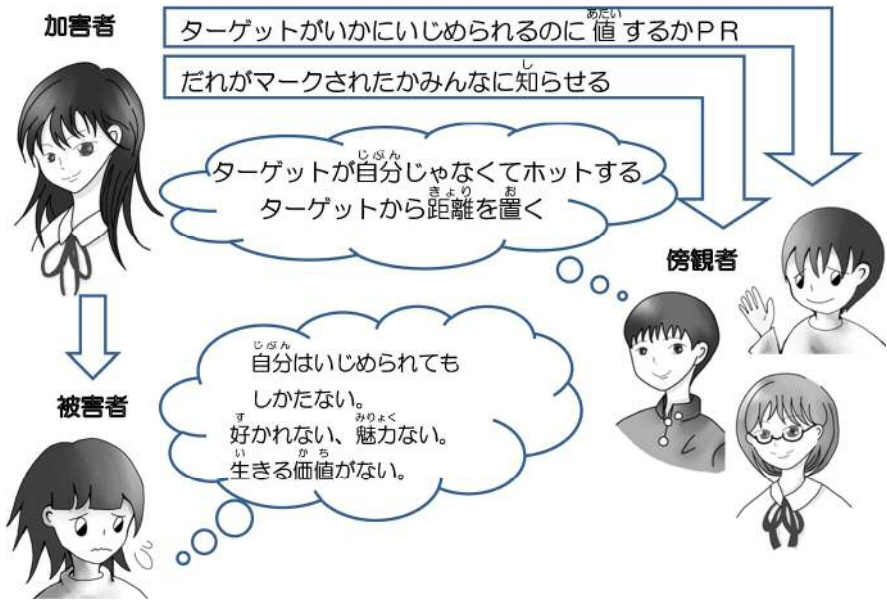
被害者を孤立化させないと、加害者はずっといじめ続けられません。まず、ターゲットを決め、みんなにターゲットが決まった事を周りに知らせます。周りの子は、ターゲットが決まったことで、ほっとします。ターゲットから距離を置きます。関わると今度は自分がターゲットになるのを恐れるからです。加害者は、「関わると、今度はお前の番だ」ということをちらつかせます。

次に、被害者にはいじめられるだけの理由があるとPR作戦をはじめます。

ターゲットの体の特徴や癖、根拠の無い欠点、どうでもいいような言動を問題にします。これは周りの人たちの差別の気持ちをくすぐります。

「自分より下」の人間がいる事は、イライラしている人間にとって気休めになります。

被害者は、はじめ、自分の言動を直したり、弁明したりしてこの状態から抜け出そうとします。こうなると緊張しっぱなしになり、心や体のしくみがおかしくなるのです。ぴりぴり、おどおど、キョロキョロし、顔色が青ざめ、脂汗が出たりします。



むりよくか  
**無力化** (いじめに抵抗する気持ちをなくさせること)

この作戦は被害者に「反抗は一切無用だ」と観念させる事です。

反抗すれば、暴力で罰し、だれも味方にならない事を繰り返し味あわせます。いじめを大人に訴える事は、特にきつく罰せられます。「大人に話すことは卑怯だ」といういじめ側の価値観で被害者を教育しようとします。被害者は、それでも周りに「助けてほしい」とのサインを出します。特に先生や両親に出し続けます。でもそれが伝わらない時には、なおのこと無力感を感じます。



とうめいか  
**透明化** (いじめが周りから見えなくなること)



被害者はひとりぼっちで、反抗も逃げ出すこともできなくなっています。周りの大人も友だちもとても遠い存在になっていると感じています。周りから離され加害者とだけの関係になってしまいます。いじめられている時間がとても長く感じ、永遠にいじめられると思ってしまうのです。被害者はだんだん、「その日ひどくいじめられなければいいや」と思うようになります。加害者の機嫌しだいでその日の運命が決まる毎日。被害者の心は奴隷のような気持ちになります。こうなると加害者は「今日だけは勘弁してやる」という態度で被害者自身に「透明化作戦」に協力させることができます。そんな時、「被害者は大人の前で加害者と仲良くしてある」ことをアピールしたり、楽しそうに遊んで見せたりします。よく見ると仲良くしている被害者の眼を見ても笑っていません。体がこわばっているかもしれません。そういう事はよほど目ざとい大人の目にしか留まりません。「誰かにいじめられていない？」と聞かれた時、被害者は激しく否定し、しばしば怒り出します。それは、「何を今さら」「もう遅い」と言う思いもあります。

「透明化作戦」が成功してきますと、金品のたかりが始まることがあります。被害者は、まずお小遣いを、次に貯金を差し出します。その次は、家から持ち出すか、万引きするしかありません。家族や社会に対して罪を犯すことは被害者に自分の自尊心を失くさせます。



しかし、何より被害者を打ちのめすのは、自分が命がけで差し出した金品を加害者がまるでどうでもいいようにあっという間に浪費したり、ひどい場合は捨ててしまったりする事です。被害者が一生懸命やった事も加害者にとってはちっぽけな事だと見せつけるのです。

自殺の気持ちが表れるのは、「無力化」段階からです。「自殺してこの状況から自分を解放する」。また、「自殺することで加害者を告発する」という思い、家族が初めてわかってくれ、級友や先生が「しまった」と思い「申し訳ない」と気づいてくれるかも知れないという思いもあります。



中井先生は、被害者の罪悪感や劣等感を軽くしていこうという目的でこの本を書かれたそうです。いじめの影響にこれ以上苦しむ人を作らないようにしたいという思いだそうです。

すべてのいじめがこの三段階通りになるとは限りませんが、加害者、被害者の心理がよく分かります。透明化の段階でお金や品物を要求することや、殴る蹴るは立派な犯罪になります。加害者の方も賢くなって、恐喝や暴力をふるわない事が多くなりました。そのかわり、SNSを使った陰湿なネットいじめが増えています。

さて、いじめの被害者になり、死んでしまいたいという気持ちにまでなった時はどうすればよいでしょうか。まず、大人（親、先生など）にいじめられていることを言う。とにかく学校にいじめられていることを伝えるのです。命の危険があるので学校を休んでもいいと思います。いじめによって学校を長期に休むと、学校は「いじめによる重大事態」と捉え、調査し対応する義務があります。



## ネットいじめが怖い！

LINEのトークやグループトークには、外部の人が入ることができません。検索などもできずにいじめを見つけることができません。密室なのです。ネットパトロールの人でもいじめを見つけることができません。

### LINE いじめの4つのパターン

- ① 仲間はずれ・・・いじめの被害者をグループからはずす。  
あるいは初めから被害者をグループに入れない。
- ② 無視・・・話しかけてきても被害者だけ無視をする。
- ③ 集団いじめ・・・一人の子に対して一斉に悪口を送るいじめ。自分を否定する言葉が次々と押し寄せてくるので、被害者は孤立化します。
- ④ 画像・動画共有・・・恥ずかしい姿など被害者の見られたくない画像をグループ内で共有する。LINEは送り手が、自分のメッセージを削除することができます。削除したらいじめの証拠は残りません。



「いじめ」で悩んでいませんか？

まずは「でんわ」が「メール」をしてください。

三木市子どもいじめ防止センター

でんわ: **0794-82-8110**

メール: [ijime\\_boshicenter@city.miki.lg.jp](mailto:ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp)

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

祝日(しゅくじつ)・12/28～1/4はお休みです。

「いじめ」について話してみませんか？

名前を言わなくてもかまいません。

つらいこと、苦しいこと、話したいことはありませんか？

いじめにあたり、いじめを見かけたりしたらあなたの話を聞かせてください。もちろん秘密は守ります。わたしたちはあなたを守りたいのです。

いっしょに「いじめ」をなくしましょう。

三木市子どもいじめ防止センター

でんわ:0794-82-8110(月～金:午前9時～午後5時)

メール: [ijime\\_boshicenter@city.miki.lg.jp](mailto:ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp)

ひょうごっ子悩み相談センター ☎0120-0-78310(毎日:24時間)

